

ドイツ語

第1 高等学校教科担当教員の意見・評価

1 前 文

共通テストの追・再試験が実施された。

本試験と同様に、高等学校で教える立場として受験者を英語に比較的近い環境で「高等学校で3年程度ドイツ語を継続して学んできた」と仮定し、評価したい。

追・再試験の受験者は、本試験に一度目を通し、出題傾向を把握していると考え。そのため、入試の公平性を保つためには、追・再試験は全般を通じて本試験より難度がやや高いことが妥当だと考える。

なお、評価に当たっては、報告書(本試験)14 ページに記載の8つの観点により、総合的に検討を行った。

2 内 容・範 囲

昨年度と変わらず、全体の構成は大問が7つあり、設問数は51問であった。文法、特定の場面や状況に応じた会話や長文など、受験者には幅広い学習が求められる出題構成である。

第1問 発音やアクセント、動詞や複数形のつくり方など基本的な知識を問う出題。

問1 アクセントのある母音の長短を問う出題。本試験より、選択肢の語彙はやや難しい。

問2 つづりと発音の規則を問う出題。語中にあるつづり字「b」の発音が問われている。本試験とは違い、複数形が選択肢になく、迷う要素は少ない。

問3 名詞とそれに関連する形容詞に関する出題。英語との区別が必要。

問4 不規則動詞の人称変化を問う基本的な出題。正答①sprechen は、基本的な動詞。

問5 不規則な変化をする動詞のうち、不定形の幹母音「i」が過去分詞形になったときに「u」に変化する動詞を選ぶ出題。過去分詞の方が本試験で出題された過去基本形より受験者は見慣れている。

問6 複数形の語尾を問う出題。本試験よりも教科書に複数形で出現する頻度が低い語が多いため難しく、判断に迷う。

問7 3つのテーマ、A：曜日、B：楽器、C：職業に属さない語を探す。

第2問 文法的知識の正確性が問われている。文法事項や熟語的表現を幅広く学んだ受験者であれば正答を選ぶことができる。

問1 grüßen の格支配を問う出題。

問2 再帰代名詞を含む sich³ die Zähne putzen の格支配を問う出題。du に対する命令形。

問3 先行詞が女性名詞である関係代名詞4格を問う出題。

問4 aus et³ bestehen という特定の前置詞と結びつく動詞の表現を問う出題。

問5 状態受動の助動詞を問う出題。本試験より目にした受験者も多いのではない。

問6 現在完了形の助動詞を問う基本的な出題。

問7 形容詞の比較級に適切な格変化語尾をつける出題。Fußballspiel が4格の中性名詞であることは冠詞 ein からわかるだろうが、als から比較表現であることを理解して比較級に格変化語尾を付けられるか。やや難。

問8 Abschied とともに熟語的に用いられる②nehmen を選ぶ。各語の意味や消去法では判断で

きず、知識を問う出題となっている。

第3問 与えられた語を空所に当てはめて、副文や zu 不定詞句を含む文構造を持つ文を完成させる出題。不要な選択肢が1つあり、正確な文法の知識を問う出題となっている。

問1 問題文は、副文＋主文＋副文で構成されている。16では従属接続詞 bevor の語順が問われている。17には主文に含まれる alles と呼応して用いられる不定関係代名詞 was が入る。

問2 主格の説明をする zu 不定詞句の並び替えと、主文の動詞の位置が問われている。副文や zu 不定詞の動詞の位置については注意深く教えるが、それ以外の要素の語順についてはそれほど重点的には教えない。やや難。

問3 与えられた意味に沿って前置詞を伴う関係代名詞に導かれる副文となるよう選択肢を並べ替える。①wann が不要なのは明らか。

問4 wenn が従属接続詞として用いられた文の並び替えではあるが、正答にかかわる zur Verfügung stehen という熟語的表現を知らないと並び替えるのは難しい。

第4問 比較的長い対話等を読み、設問に答える。登場人物は本試験と同様に3人であるが、前半部分は2人の対話で、読みやすい印象を受けた。会話は問に挟まれる形で時系列に沿って構成されており、前半は旅行する前、後半は旅行中のカーニバル会場で行われている。問の前後で場面が切り替わっており、場面展開もわかりやすい。ただ、会話が第3問の間1で問われている文法知識である従属接続詞 bevor から始まっており、16を解く際の参考となる。

問1 選択肢の Vorschlag の意味がわかり、「旅行をする」という話題に続く24の後に「Ja,」と言い、お祭りがあるということがわかれば、正答④を選ぶのは難しくはない。

問2 下線部②の直前のやりとりから Fabian も誘う流れが読み取れるか。正答を選ぶことは難しくはないが、vorbeikommen は教科書では余り見かけない。

問3 Andreas と Kenta による対話終盤の内容を正確に読み取る。宿泊先が Bonn であることが読み取れるか。

問4 27に入る適切な表現を選ぶ。直後のセリフでまだ場所があることが読み取れるか。

問5 27以降の gegenüber や stehen が適当な絵を判別するために必要な語彙。

問6 会話の内容を正確に読み取る。カーニバルの開催時間と、1時間くらい見たいというやりとりから総合的に判断する。思考力を問う良問。

問7 ここまでの会話の内容を正確に読み取ることができていれば難しくはない。

第5問 第4問と同様に登場人物が3人ではあるが、対話と2人でのチャットのやりとりに分かれており、読みにくさは感じない。話者が2名に限定されるため、本試験よりも取り組みやすい。

問1 32以降に会ってお祝いする旨が述べられていることから、その喜びや実際に Weimar で会うことを表現した③を選ぶ。

問2 im ersten Stock は日本語では2階、そして、庭にある花が見える正答④を選ぶ。

問3 魚料理については、「余り食べない (selten essen)」としか述べられていないことから、正答①を選択できる。

問4 Abendbrot の説明として適切なものを選ぶ。下線部⑤で温かい物 (etwas Warmes) も食べることと、③にある warme Gerichte がその言い換えであることがわかるか。

問5 36の前のセリフで Ayumi はドイツで試したいことについて述べ、36の後ろでは Ricardo がホストマザーは親切だと言っていることから、試したいことを伝えるよう Ayumi にアドバイスをしていることを読み取る。

問6 チャット以降の2人の対話から③を読み取る。

第6問 主人公が見つけた一枚の写真から始まる物語からの出題。過去の出来事でありながら主に現在完了形で書かれており、本試験と同様に、これまで扱われてきた過去形を用いた文より親しみやすい。

問1 選択肢の出来事を、物語の中で実際に起こった順に並べ替える。各選択肢の内容は、本文の流れを踏襲しており、本文と選択肢を精読すれば並べ替えるのは難しくはない。選択肢の中央に出来事が1文配置されており、6つの選択肢を3つずつに分けて並べかえれば良いため、本試験より取り組みやすいかもしれない。

問2 第1段落にある写真の描写を読み、正答の絵を選ぶ。beobachten はやや難の動詞。Hochzeit という語を知らない受験者には絵が本文理解の一助となる。

問3 知らない男性が、主人公の持っている写真にしか写っていないことを第2段落及び第3段落から読み取る。選択肢のドイツ語も難しくはない。

問4 正答は②であるのだが、主人公が語る内容からは、会うときに「近づいている」ことを明確には読み取りづらい。消去法で正答を選ぶことになる。

問5 内容に合う日本語の記述を選ぶ。確信を持って正答を選択できなくても、消去法で①と③を選択することになる。

第7問 成長段階における音と音楽に関する記事からの出題。本試験よりはやや専門性が高く、語彙も難しく感じた。教養として知っていた場合には、読むのは難しくなかったかもしれない。本試験と同様に問1～5はドイツ語での出題である。選択肢には、本文に利用されている語句が散りばめられており、正答に至るためには本文の内容と選択肢の内容が一致しているか精読する必要がある。

問1 第1段落の最後のErinnerungen weckenと同じ表現を選ぶ。選択肢のドイツ語には難しい語彙が多く含まれている。

問2 第2段落を読み取る。TönenやKlängeは難。

問3 第3段落の実験内容の具体例を選ぶ。段落の最後の比較級の文がポイント。

問4 第4段落3行目からの文の言い換えを選択する。当該箇所は、um…zu不定詞句の中にsowohl…als auch…を含む形になっている。

問5 第5段落5行目の言い換えを選択する。本文中のgefallen/von et³ abhängenと④eng verbundenが近い表現として使われている。なお、本試験第2問の問4に、von et³ abhängig seinという表現が出題されている。

問6 50の正答は第3段落目以降の要約である。正答を選ぶためには、選択肢の日本語とドイツ語の単語や本文の内容とを照らし合わせ、精読する必要がある。

問7 本文内容を理解していれば、正答①を選ぶのは難しくはない。

3 分量・程度

昨年度の共通テストと使用語数はほぼ変わらない。難易度も同程度であり、読みにくさや取り組みにくさは感じない。

4 表現・形式

語彙や表現に関する注は余りなかったが、本文や設問に使われている語彙に配慮を感じた。

今年度の共通テスト「ドイツ語」には、本文には明示されていない事柄を想像して解答を選択せざるを得ない出題が見られた。本文内にある語や表現を注意深く読み取ることで、正答を選択でき

るようにしてほしい。

共通テスト「ドイツ語」にはリスニングの設定がなく、受験者にアクセントや母音の長短への意識を持たせるためにも、アクセントなど発音に関する出題を維持してほしい。「思考力・判断力・表現力等」を問うことを共通テストでは意識しているのかもしれないが、記述式の出題がない中で、それらの能力を問うには限界があると感じている。長文からの出題では、局所的な理解を問うのではなく、正答を導き出すためには広範囲にわたって精読する必要があった。本試験と比較すると、知識がないと正答を選択できない問題が多かった。

5 ま と め（総括的な評価）

追・再試験について、幾つかの観点から意見を述べたが、英語とは違いドイツ語の学習環境は多種多様であり一般化することができない。その中で、高等学校の現状を鑑みて、英語以外の外国語学習に対して意欲的に取り組む生徒の実力が測れるような「ドイツ語」の問題作成に、多くの時間と労力を割いてくださっている問題作成委員の方々に心から感謝申し上げる。